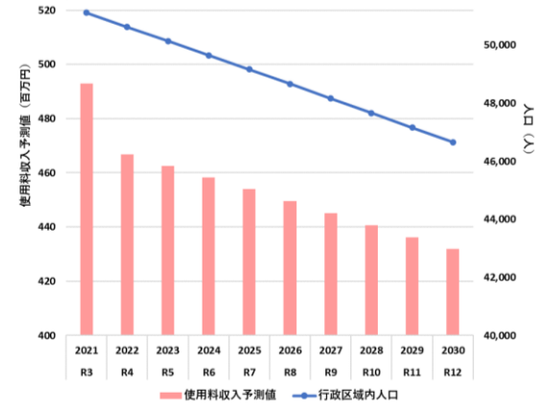
出水市　下水道事業　経営戦略【概要版】　　計画期間：令和３年度～令和１２年度（２０２１年度～２０３０年度）

1　下水道事業の課題

（使用料収入の減少）

本市では、汚水処理施設の整備がおおむね完了していることから、使用料収入の増加が期待できません。

また、人口減少による使用料収入の低下も予測されるため、収入の確保が課題となっています。

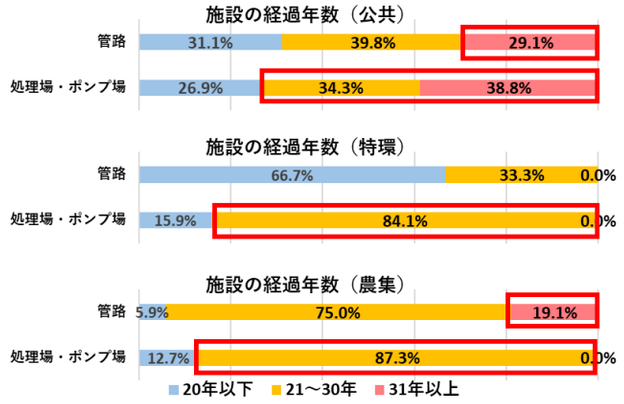


注1. 使用料収入予測値は、公共、特環、農集の合計値
注2. 公共＝単独公共下水道事業、特環＝特定環境保全公共下水道事業、農集＝農業集落排水事業　を指す
注3. 行政区域内人口は国立社会保障・人口問題研究所推計値　注4. R3年値は予算値

（老朽化施設の増大）

管路施設は下水道（公共）及び農集の一部で、破損による道路陥没の危険が高まっています。（危険が高くなる30年を経過している下水道管は、下水（公共）は30%程度、農集は20%程度あります）

処理場・ポンプ場は、下水道（公共、特環）、農集で老朽化が進んでおり、設備故障の危険が高まっています。（標準使用期間20年を経過した設備が70～90%程度あります）



注. グラフは固定資産台帳の取得年、取得金額ベースで作成

2　経営の基本方針

（基本方針）

汚水処理施設の整備は、おおむね完了しており、人口減少などにより、使用料収入減少が予測されます。また、老朽化施設の増大により、設備の故障や機能不全、下水道管の破損に伴う道路陥没事故の危険も高まっています。

「安心、安全」に下水道のサービス水準を持続させるためには、老朽化施設（処理場・ポンプ場及び下水道管）の改築・更新への投資計画と「効率的な事業運営」の検討が必要となっています。

このため、下水道事業経営戦略では、

「安心・安全でかつ、効率的に市民サービスを図るための事業運営に努める」

を基本方針としました。

3　経営の効率化への取組

市民への負担増大を極力せずに済むよう、まずは経営努力により、市民サービスへの影響を考慮しながら経費削減や効率化を進めていきます。

（効率的な改築・更新）

⇒汚水処理施設の改築更新にあたっては、状況に応じて規模の適正化を図るとともに、新技術を積極的に導入し、コスト縮減に努めます。

（平準化）

⇒施設整備にあたっては、整備時期を工夫し、経費の平準化に努めます。

（ICT導入可能性の検討）

⇒行政人口の減少に伴う職員数の減少と施設老朽化に伴う維持管理業務の増加を補うために、ICTの導入可能性について検討していきます。

（広域化・共同化、民間活力の検討）

⇒広域化・共同化、包括民間委託等、民間活力の導入可能性等について検討します。

4　経営の健全化へ向けて

経営効率化による経費抑制の取組等、経営努力を進めていきますが、将来に向けて以下の検討も進めます。

（水洗化率、使用料金）

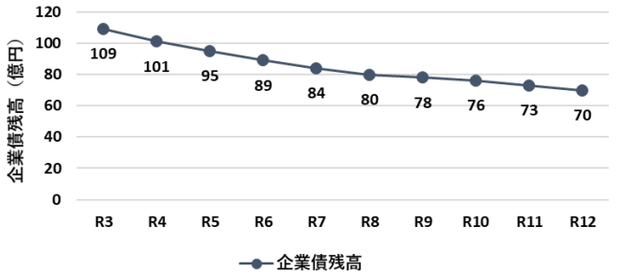
⇒接続推進活動等の接続率（水洗化率）向上策を維持継続し、水洗化率90%以上を目指します。

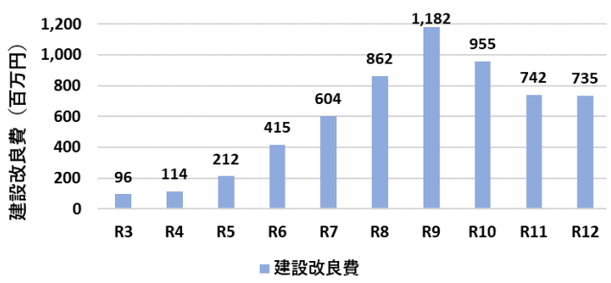
⇒今後の経営状況を踏まえながら必要に応じて、適正な使用料金についての検討を行います。

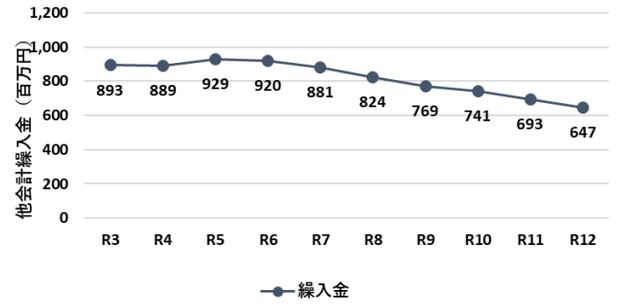
5　投資・財政計画

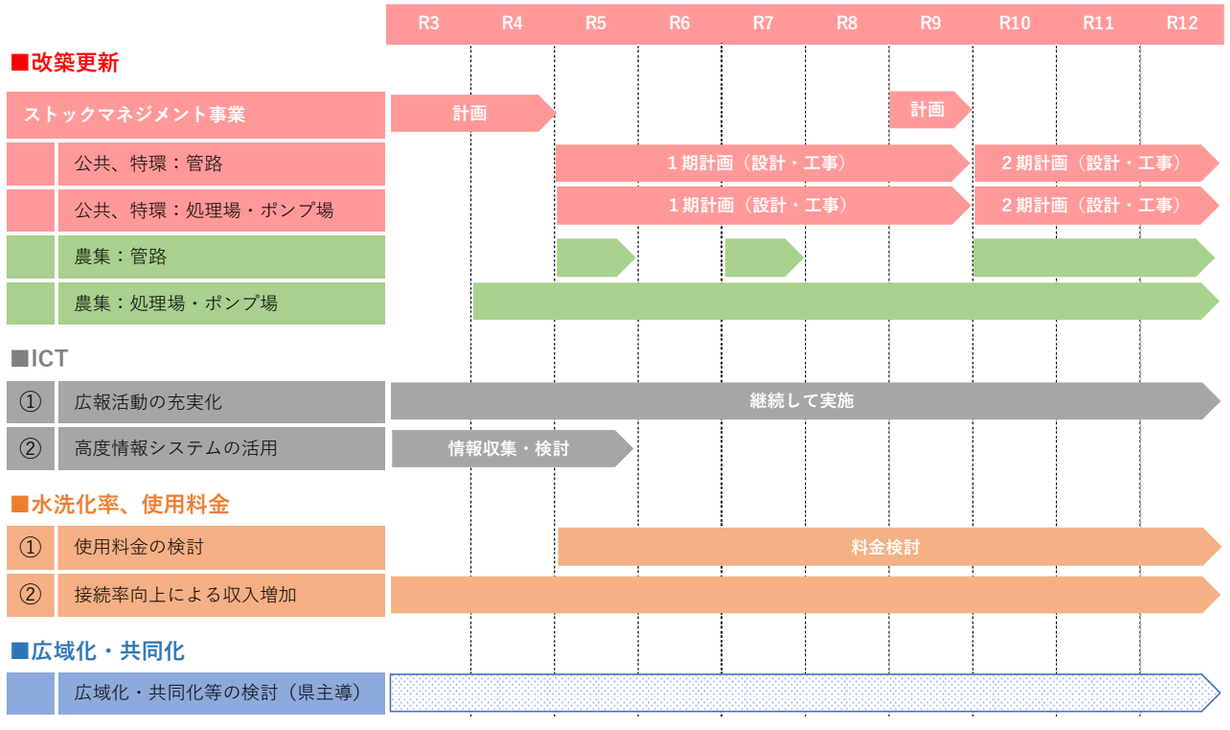
10年間の投資財政計画における建設改良費、企業債残高（借金）、繰入金（一般財源からの繰入れ）は図に示すとおりです。企業債は減少していく見通しです。繰入金についても、当面は減少する見通しです。

経営効率化の取組を進めることで、企業債や繰入金の減少に資するよう努めます。







注1. R3年値は予算値　注2. 繰入金には雨水処理負担金を含む

6　計画期間の主な事業スケジュール